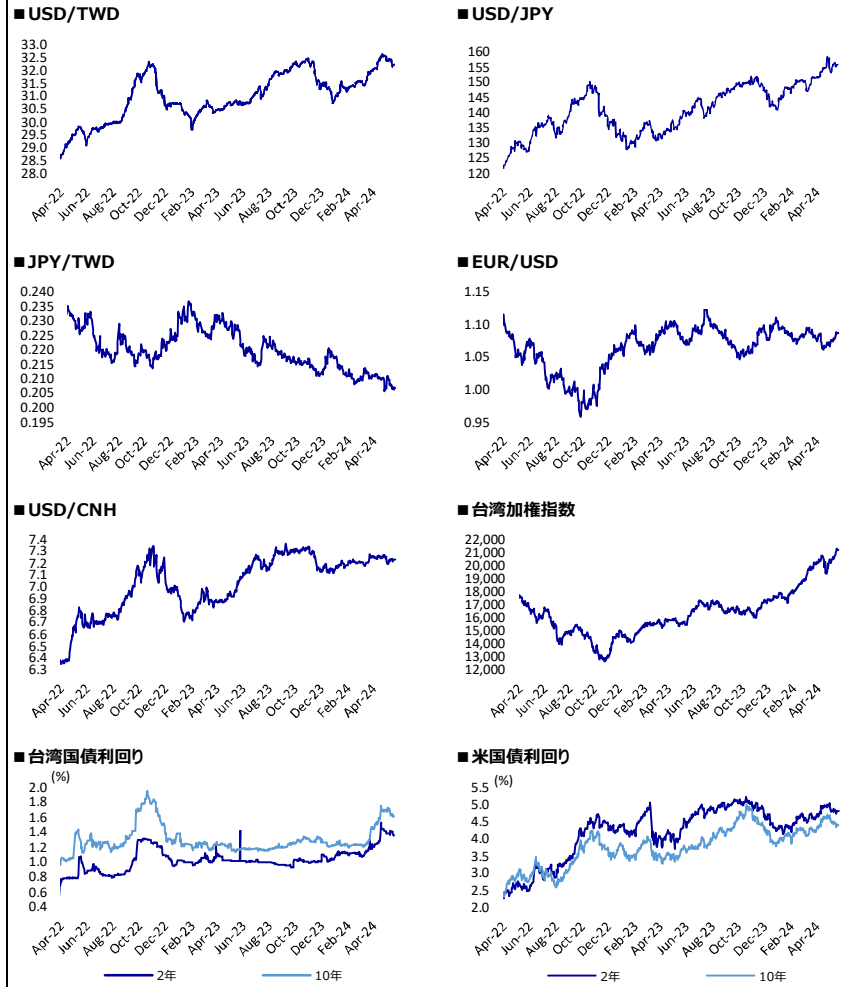


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初5/13は32.430でオープン後、前週末に発表された中国4月社会融資規模より、中国経済のファイナンス規模が前月比で減少に転じていたことが示されていたことで、中国経済減速が意識されアジア通貨売り圧力が強まる展開に。一時32.479まで上昇した。5/14は、材料に乏しく32.40台前半で揉み合いの推移。5/15は、前日海外時間に米FRB議長のパウエルより「インフレ見通しの確信は高くないが、2024年を通して低下し続けるだろう」との見解が示されたことで、米金利が低下していたことを受けてドル売りが優勢な展開となり、32.30近辺まで下落した。5/16は、前日海外時間に発表された米4月CPIと米4月小売売上高が市場予想を下回る結果となっていたことを受けて、米国における早期利下げ期待が再燃しドル売りが優勢な展開に。更に、台湾加権指数が史上最高値を更新する中、外国人投資家による台湾株買いも見られたことで台湾ドル買い圧力が一段と強まり、一時32.081まで下落した。5/17は、前日海外時間に米金利が上昇していたことを受けて、ドルが買い戻される展開となり32.20近辺まで上昇。最終的には前週比0.6%ドル安台湾ドル高の32.206で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は1,142.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初5/13は155.75でオープン後、海外時間に米FRB副議長のジェファソンより「物価圧力緩和と金利据え置きを」との発言が聞かれ、ドル買いが進み156円台前半まで上昇。5/14は、海外時間に発表された米4月PPIが市場予想を上回る結果となっていたことを受けて、ドル買いが一段と進み一時156.80まで上昇。5/15は、海外時間に発表された米4月CPIと米4月小売売上高が市場予想を下回る結果となっていたことを受け、ドル売りが優勢な展開となり154円台後半まで下落。5/16は、米金利の低下を受けてドル売りが継続し、一時153.60まで下落。その後発表された米4月輸入物価が市場予想を上回る結果となっていたことを受けて、ドルが買い戻され155円台半ばまで上昇。5/17は、日銀による定例輪番の国債購入継続が発表されると、円売り圧力が強まり155円台後半まで上昇。最終的には前週比0.1%ドル安円高の155.65で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.050-32.350
今週は上値の重い推移を見込む。米金利は高止まりする一方、台湾株投資資金流入が増加しつつある他、月末にかけて輸出業者によるドル売りが見られる場合、上値が重い展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：154.50-157.50
今週は揉み合いの推移を見込む。米利下げは2024年内に2回程度で市場予想も固まりつつある状況下、方向感に乏しい展開となるであろう。

今週の予定

5/20 (MON)	台湾4月輸出受注、台湾第1四半期国際収支
5/21 (TUE)	
5/22 (WED)	日4月貿易収支、台湾4月失業率、米4月中古住宅販売件数、FOMC議事録
5/23 (THU)	台湾4月鉱工業生産、米4月新規住宅販売
5/24 (FRI)	日4月CPI、米4月耐久財受注

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。